

平成29年度 第1回成田市水道事業運営審議会 会議概要

1 開催日時

平成29年7月31日（月）午後3時から午後4時30分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

（委員）

遠藤委員・市東委員・佐久間委員・伊藤委員・
中山委員・岩館委員・岡里委員

（事務局）

山下水道部長・後藤業務課長・鳥羽業務課長補佐・福島業務課主幹・
村上主査・香取工務課長・高橋整備係長・岡野維持管理係長

4 欠席者

なし

5 議題

- (1) 会長の選任について
- (2) 副会長の選任について
- (3) 並木町配水場改修事業における事業評価について

6 議事（要旨）

- (1) 会長の選任について
委員の互選により、遠藤委員が選出された。
- (2) 副会長の選任について
委員の互選により、市東委員が選出された。
- (3) 並木町配水場改修事業における事業評価について
並木町配水場改修事業の効率的な執行及び、その実施過程の透明性の一層の向上を図るために実施した事業の事前評価について、事務局から説明を行い、委員より意見を求めました。

委員からはこの事業評価に対する意見はありませんでした。
この事業評価に対する主な質疑は次のとおりです。

【委員】

「最新の耐震基準」とは、東日本大震災クラスの地震にも耐えられるものなのか。

【事務局】

日本水道協会が発行している「水道施設耐震工法指針・解説2009」において最新の耐震基準が定められていますが、東日本大震災後に厚生労働省と日本水道協会が共同で行った現地被災状況の調査において、この耐震基準に則って作られた管路・施設については、ほぼ全てが被災していないことが確認されていることから、東日本大震災と同じマグニチュード9クラスの地震に対しては問題ないと考えています。

【委員】

資料にある「PHb工法」「RMA工法」「CCB工法」について説明して欲しい。

【事務局】

「RMA工法」は、補強する鉄筋を、接着剤を付けて、底版に打ち込んでいくという工法です。鉄筋を追加することによって、底版の強度を上げるという工法になっております。

「PHb工法」は、両端が特殊な形をした鉄筋を底版に打ち込む工法ですが、特殊な形状をしており、直接打ち込むことができないため、あらかじめ空けておいた穴に入れ、隙間には無収縮系のモルタルを詰めていくという工法になります。

「CCB工法」は、両端にセラミック定着体の付いた鉄筋を、あらかじめ底版に空けておいた穴に入れていき、底版を補強するという工法です。

いずれの工法も、底版に鉄筋を差し込んでいく工法ですが、それぞれ施工性も異なりますし、使用している接着剤や、無収縮系のコンクリート材等の中に入っている物質等も考慮しながら比較検討を行い、一番、水道の施設に合っており、価格も安いPHb工法を採用することとなりました。

【委員】

先ほどの説明であったPHb工法を、新設する2号配水池にも施工するのか。また、既存の1号配水池は杭構造のようだが、2号配水池に杭は打たないのか。

【事務局】

新設する2号配水池に関しては、補強等を行いません。最初から、最新の耐震基準に適合させて、床の厚みを計算して設計しております。先ほどご説明した工法はあくまでも既存の配水池への耐震補強工法ですので、新設する配水池には使いません。なお、参考資料の図面では省略しておりますが、実際には、2号配水池にも杭は入っております。

【委員】

今回の並木町配水場改修事業において、約2,686㎡を拡張することだが、これは個人の土地か。

【事務局】

個人の土地を買収させていただいております。

【委員】

3号井は参考図面中にあるが、他の井戸はどこにあるか？

【事務局】

並木町配水場の原水の井戸は5本ありますが、そのうち、配水場内にあるものは3号井だけです。それ以外は配水場外に、それぞれ単独で4本の井戸があります。井戸の場所から、道路下に導水管と呼ばれる管が埋設されており、それを使って配水場内まで原水を送っております。

【委員】

この事業の工事期間は6年間となっているが、もっと早く完成させることはできないのか。

【事務局】

並木町配水場は多くの方に水をお配りしている施設ですので、配水場の機能を停止させることなく、一つずつ新しいものに切り替えながら工事を進めていく計画ですので、6年間が最短の工事期間と考えております。

【委員】

水道事業においては、赤字が出ているのか。

【事務局】

平成28年度決算において、営業収益は営業費用を下回る見込みですが、営業外収益は営業外費用を上回る見込みであり、合計では利益が出る見込みとなっております。

7 傍聴
1名

8 次回開催日時（予定）
未定